

漠然とした不安を抱えるCOPD患者に対する MTDLPを活用した臨床実践

Clinical practice using MTDLP for COPD patients with vague anxiety

所属名 深川市立病院¹⁾ 北海道大学大学院保健科学院リハビリテーション科学²⁾

氏名 岩岡拓人¹⁾ 齋藤隆司²⁾ 赤松充敏¹⁾

I.序論・先行研究

報告の目的

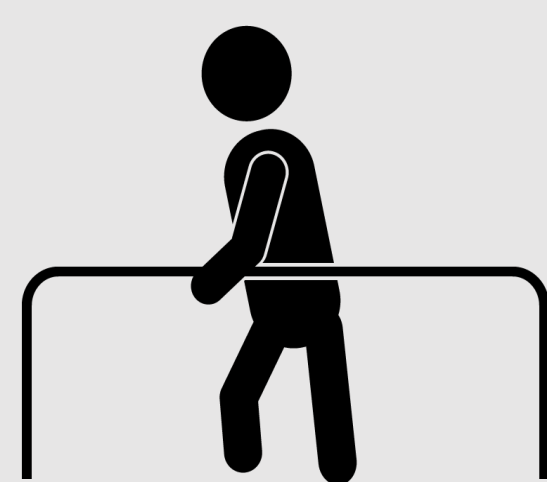
1 不安・抑うつ状態の
COPD患者に対する
OT実践報告は少ない

2 不安・抑うつ状態の
COPD患者に対する
MTDLPを活用した
報告は見られない

生活に漠然とした不安や抑うつ状態を抱える
COPD患者に対するMTDLPの有用性を示す

II.一般情報

A氏 女性 70歳代
151cm 35kg



- 現 病 歴：歩行時に呼吸苦が出現し,当院を受診する
COPDを診断されて入院となる
- 習慣活動：夫,息子と同居する自宅内の定期的な掃除をすること

III.OT評価 身体機能面・ADL

心理・精神面

- 安静時Spo2：95%,呼吸筋の筋緊張亢進
- 50m歩行・ADL後のSpo2：**90%**
- ADL：BI90/100点,**易疲労性(+)**

- 認知機能面：MMSE**28**/30点
- HADS:HADS-A(不安)2点*点数が低い程,良好
HADS-D(抑うつ)**7**点

IV. MTDLP合意目標設定とOT方針

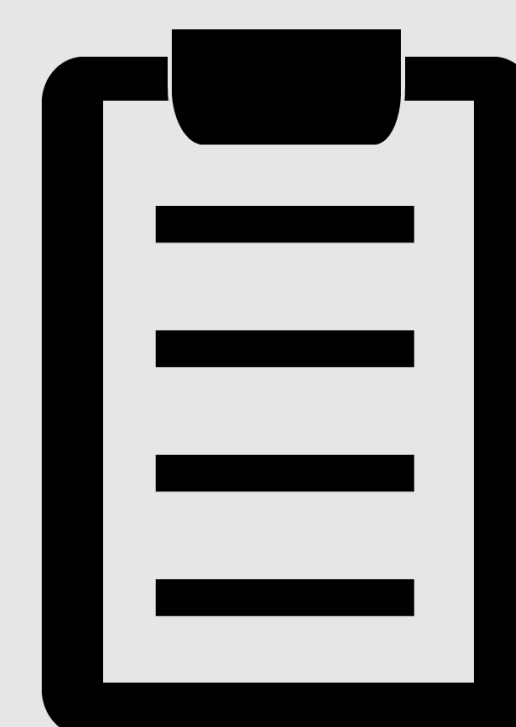
初回OT面談：**家で生活するのは何か不安がある** → MTDLPでの面談：**掃除ができるか不安**

—MTDLP合意目標— 実行度**1**/10点/・満足度**2**/10点

『朝食後に(when)自宅1階の居住スペース(where)を呼吸困難感に合わせて
休憩をしながら(who + how),掃除機がけをする(what + why)』

—OT方針—

- 認知機能が高いため,疲労の自己管理を目的に修正Borgスケールを紙面提供する。
50m歩行とADL動作,掃除動作の訓練終了時に確認し,自己管理の習慣化を図る。
- 掃除機がけ作業は単調な反復動作のために動作が性急になること,姿勢が前屈位になり
呼吸困難感が増加することを留意点として記載した紙面を提供する。



V.経過と結果

VI.考察

—介入当初—

- 50m歩行,ADL動作,掃除訓練:Spo2:90%
修正Borgスケール:5点,易疲労性(+)

—入院2週目—

- 50m歩行,ADL動作後Spo2:95%,呼吸状況改善
掃除動作：「**やってみないとわからない…**」

—入院4週目—

- 掃除訓練:実施中,自主的に休憩をとれる。
修正Borgスケール:2点,易疲労性が改善した。

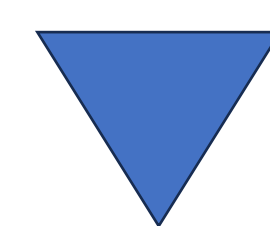
—OT結果 退院時—

- 掃除訓練：
「家に帰ってもやれそう,休憩が大事だ」
と前向きな発言が聞かれた。

合意目標:実行度**1**→**5**点,満足度**1**→**5**点
HADS-A**2**→**1**点,HADS-D**7**→**1**点

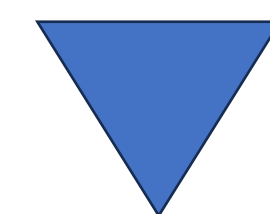
満足度,実行度,抑うつ状態改善,自宅退院

当初 掃除動作「やってみないとわからない」



退院時 掃除動作：「家に帰ってもやれそう」
好転的な反応+HADS点数が改善

- 疲労を自己管理しながら掃除動作を
『出来る体験』として積み重ねた経験が
掃除動作に対する嫌悪的な認識からの脱却
を促したと示唆している



実行度と満足度の向上に寄与したと考える
**COPD患者に対するMTDLPの活用は
漠然とした不安の抽出と介入を可能とした**

不安や抑うつ状態を呈するCOPD患者に
MTDLPの活用は有用的だと考える

第57回日本作業療法学会 COI 開示

筆頭発表者名：岩岡 拓人

演題発表に関連し,

開示すべきCOI関係にある企業等はありません。